

2020年5月8日発行

## FPC Commentary Vol. 9

# コロナ後の世界は変わるのか？

目白大学教授 石井貫太郎



### コロナショックに見舞われた世界

単なる新種のインフルエンザに全世界が翻弄された悪夢の数ヶ月を越えて、欧米諸国は軒並みロックダウン状態から制限を緩和し始めている。そうした現状下においてなお、実効再生産数が0.7という驚異的な数値であるにもかかわらず、今だに先進諸国で唯一日本だけが、国民の不安を煽った手前引っ込みがつかなくなった政権の面子に引きずられ、出口の見えない闇のトンネルを彷徨っている。

実際、このcovit-19（新型肺炎コロナウイルス）の特徴は、欧米人に対しては甚大な被害をもたらすウイルスであった反面、日本をはじめとする東アジア諸国の人々にとっては、果たしてその理由が日本株のBCG接種であるか否かは別問題として、少なくとも風邪以上インフルエンザ以下の流行性感冒であったことは否定できない。もちろん、高齢者や基礎疾患保持者の一部には重症もしくは死亡という悲惨な結果を招いたわけではあるが、それは他種のインフルエンザでも同様か、あるいはそれ以下の数値であったらう。

ところで、日本ではすでに遅くとも4月中旬にはピークアウトし、現在ほぼ第一波が収束状態にある新型肺炎コロナウイルスが今後の世界にもたらす影響、すなわち「アフター・コロナ」の時代を洞察する議論がすでに各所から出始めている。よって、ここではその論点のいくつかを総合的見地から検討したい。

### 果たして世界は変わるのか？

結論から言えば、今後の世界においては、実のところコロナショック以前からその兆候が確認されていた現象の傾向が加速化・激化する状況が生まれこそすれ、

まったく新しい現象が生起することは稀少であるという事実を確認できる。

というのも、その昔ヨーロッパの人口の3分の1が死亡した14世紀の黒死病（ペスト）の流行は、ウイルス感染状況の激しい都市部から農村部への大規模な人口の移動や庶民を見捨てていち早く郊外へ逃避する情けない姿をさらした権力者たちの政治的・宗教的権威の失墜、また、これに伴う相対的な労働者の地位向上などの新しい現象を生起させ、後の自由資本主義的な近代国家が誕生する温床となった。

しかし、21世紀のコロナショックが生み出したとされる現象は、以下に見るようなアンチ・グローバリズム気運の隆盛、既存の政治的・経済的権威の失墜、大衆の意識改革の進展など、すでにそれ以前から存在していた社会現象の傾向を加速化・激化させる動向が見られるに過ぎないのである。

たとえば、コロナウイルスによるパンデミック状況は、グローバリゼーションの拡大と深化が各国に政治的および経済的な利益をもたらす反面、こうした状況下における負の効果、すなわちボーダーレス化の進展がウイルスの猛威には極めて脆弱な社会を作り出してしまったという危機意識が生まれ、それによって諸国の外交政策の指針が空洞化するグローバリズムから20世紀型のインターナショナルイズムへ回帰するという動向が指摘されている。しかし、こうした傾向はすでにコロナショック以前から存在しており、別に新たに生み出された現象とは言えない。

特に国際政治という視点からは、形骸化する国際協調の衰退とナショナリズムの高揚やアメリカの覇権システムの再編

と米中対立の激化といった具体的な動向が指摘されているが、これらの傾向はすでにアメリカでトランプ政権が誕生して以来指摘されてきた既存の要素に過ぎない。また国際経済という視点からも、部品供給他の拡散による中国経済の没落やアンチ・オイルショック、すなわち原油価格の下落といった動向が指摘されているが、これもまたすでにコロナ以前から、中国の経済発展に伴って人件費が高騰したことにより各国の中国依存体制からの脱却が始まっていたし、また、中東諸国を中心とした産油国の足並みの乱れなどがすでに土台にあって、そこへ今回のパンデミックが中国の生産活動をストップさせたことを受け、その傾向に拍車がかけられた動向に過ぎない。

さらに国内の経済社会という視点からは、コロナ・リセッション、すなわち各国の経済停滞による財政金融危機とそれを克服するためのハイパー・ケインズ主義による景気高揚政策の展開、産業構造の内需重視への転換、また、貧富の格差拡大に伴うニュー・ノーマリーの出現といった動向が指摘されており、さらに国内の政治社会における視点からも、アンチ・デモクラシー、すなわち民主主義・分権主義と独裁主義・集権主義のいずれが危機管理に有効性を持つか否か、あるいは国家の政策から自立したリージョナリズムやローカリゼーション、すなわち地域主義・地方自治の復権といった諸動向が指摘されている。

しかし、むしろこれらの問題こそは、いずれも国家や社会が形成されて以来今日に至るまで決着のつかない人類の半永久的な政治的および経済的な課題であって、特にコロナ・ショックによって生み出された新しい課題であるとは考えにくい。

加えて日本社会の視点からは、メディアリテラシー、ポピュリズム、プロパガンダ、ピアプレッシャーなどの動向が浮き彫りになったとの指摘がある。たとえば、視聴率を稼ぎスポンサーを獲得する営利目的の企業であるメディアにとって、新型コロナウイルスという新しい話題の登場はニュース媒体としての利益増大に

資する活動を生んだ。また、それによってかき立てられたメディアリテラシーの未熟な国民が抱く不安が煽られたことは、統治者としての政治家や官僚にとって権力的基盤を拡充するのに好都合な社会風潮を生み、そうした状況を利用するポピュリスト政治家たちのプロパガンダは準ロックダウンの状況を長期化させる大衆の自発的かつ従順なピア・プレッシャー、すなわち同調圧力を出現させた。

要するに、すでに本論の冒頭でも指摘したように、メディアがはしゃぎ、その状況を政治家が利用して人々の不安を煽るプロパガンダを遂行し、そこで生まれた大衆の同調圧力が今度は逆に政策決定者の手足を縛り、結果として引っ込みのつかなくなった政権が面子にこだわりいつまでも自粛政策を解除できない世論風潮を導出したのである。しかしながら、言うまでもなくこうした社会構造の欠陥もまた、コロナ・ショック以前から日本社会の病理として問題視されてきた課題である。

## コロナ後の世界

以上に見てきたように、実はコロナ後の世界で生起すると指摘されている動向の多くは、コロナ以前の世界ですでに現出していた問題が加速化・増大化する傾向に過ぎず、少なくとも主要な社会問題としては新たに出現するものはほとんど存在しないと言って良い。つまり、コロナ後とコロナ前の世界は量的には変わっても質的には大きく変わることはないのである。

その意味で「アフター・コロナ」について世評で頻繁に見聞きするような「元に戻らない」という予測はあり得ず、そもそも「本質的な変化はない」のである。もちろんその理由は簡単で、要するに国際社会であると国内社会であるとを問わず、この数十年間を通じてグローバル化が拡大・深化し、それぞれの社会が有機的なシステムとしての連携を強めた結果だと考えることができる。グローバル化の拡大・深化が逆にグローバル化の欠点と限界を導出することになるとは何とも皮肉な話である。

しかしながら、今回の新型コロナウイルスに関する一連の出来事により、われわれが非常に多くのことを改めて学ぶ機会を得たのは事実である。およそその最大の教訓は、結局、どれほど有能な経営者やいかに優秀な国民がいても、より上層の権力者たる政治家や官僚の政策決定が適格でなければその国は終わりだという現実である。それでは適格な政策を施行できる政治家とはいかなる人物であるのか、そのような人物を政治家にするためにはどうすれば良いのか、政治家にふさわしい資質とはなにかといった議論の充実、すなわち政治的リーダーシップ論の充実が国民の急務であることを改めて強く再確認する必要がある。

なお、最後に指摘しておきたいのは、社会で形成されている既存のシステムの崩壊、すなわちコラプス問題である。ここでは、日本においては諸外国のような医療崩壊よりも、むしろ休校措置による教育崩壊の危機が今後半世紀にわたる甚大な被害をもたらすであろうことを指摘

しておきたい。ちなみに、ウイルスがどのようなものかという議論と医療崩壊の議論は別次元の問題であり、前者は医療・医学の問題であり、後者は政治・経済の問題である。わが国においてこの両者を混同した議論が随所に見られるのは誠に残念である。

いずれにしろ、今後の若年層には基礎学力の向上とともにリアリズムの観点に立った政治経済の知識を十分に教育することが必要である。自分たちの国民生活の運営のすべてを、パンデミック下でありながら給料やボーナスが減ることのない政治家や官僚に任せてしまうような国民では、社会を揺るがす類似の問題が繰り返し生起するであろう今後の時代には心許ない。今や広い視野とリアリズムの思考回路を持った国民を数多く育成することこそが、日本を含む世界中の国々の最重要課題である。

\*本論の内容はすべて筆者個人の意見であって、FPCの見解を代表するものではありません。

(文責・筆者)

発行：特定非営利活動法人 外交政策センター Foreign Policy Center (FPC)

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-30-7-502

定価：100円 Eメール：foreignpolicy617@gmail.com

ホームページ：http://www.foreign-policy-center.tokyo

Facebook：https://www.facebook.com/fpc.gaikoseisaku/